

第6回地域フォーラム

# 上北山村地域ビジョン

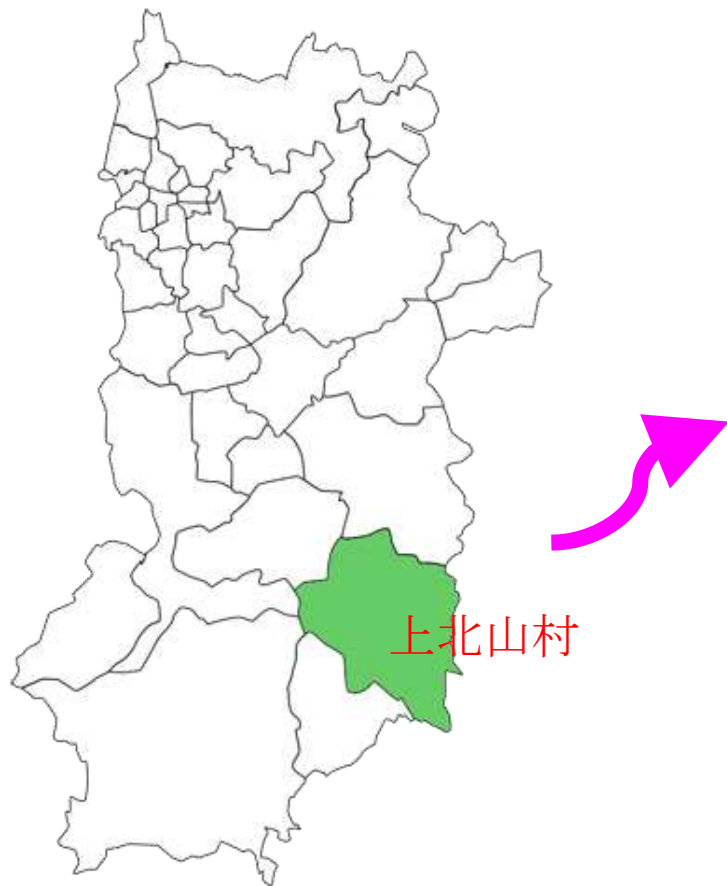


ナメゴ谷の紅葉

令和元年9月16日

上北山村長 山室 潔

# 平成31年4月1日現在の**上北山村**の人口:495人



## 現 状

2015年～2017年の3年間の人口減少率  
全国1741自治体の中で 2位  $\Delta$ 12.75%  
母数が小さいので6～7人減ると・・・全国上位

3年間の平均(年あたり)

出生数 0.6人 転入数 20.3人  
死亡数 12人 転出数 34人  
増減数  $\Delta$ 25.1人

# 「大台ヶ原・大峯山・大杉谷 ユネスコエコパーク」



1980年(昭和55年)

「大台ヶ原・大峯山ユネスコエコパーク」は、「志賀高原」(群馬県、長野県)、「白山」(石川県、岐阜県、富山県、福井県)、「屋久島」(鹿児島県)と共に認定



新登録審査基準により、既存のエコパークにおいて、核心地域、緩衝地域その他、移行地域を設定する必要が生じた(平成23年)



奈良県五條市、天川村、川上村、上北山村、下北山村、十津川村及び三重県大台町、の7市町村で協議会を設立



平成28年3月20日に拡張認定

- ・吉野熊野国立公園 特別保護区「大台ヶ原」
- ・日本百名山「大台ヶ原山」
- ・西大台利用調整地区
- ・大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク



「大台ヶ原」のネームバリューと自然環境を活かした経済活動、地域活性化を目指す

ユネスコエコパークは「生物圏保存地域」の日本独自の呼び名で、生物多様性の保全、経済と社会の発展及び学術的支援の3つの機能をもち、「自然環境の保全と人間の営みが持続的に共存している地域」で、ユネスコに承認された地域です。



# ユネスコエコパーク・大台ヶ原の活用 (スポーツツーリズム)

標高差1,240m/距離28km

■ 大台ヶ原マラソンinかみきた

ヒルクライムマラソン

毎年5月の第2日曜に開催。定員350名。  
→今年から自転車レースと同じコースに変更。

■ ヒルクライム大台ヶ原since2001

自転車のヒルクライムレース

毎年9月第2日曜に開催。定員800名。  
今年(2024)は9月7日受付、8日競技



## 上北山村北部図

県道 大台ヶ原公園川上線

大台ヶ原

林道 辻堂山線

ゴール

県道 大台河合線

スタート

国道169号



# 上北山村北部図

## ユネスコエコパーク・大台ヶ原の活用 (エコツーリズム)

世界遺産「大峯奥駈道」への  
登山基地来訪者数  
平成30年度 7,970人

和佐又山エリア

県道 大台ヶ原公園川上線

大台ヶ原

大峯奥駈道

国道309号

約15km

約28km

大台ヶ原(東大台・西大台)来訪者数  
平成30年度 79,181人

### 課題

村の北部、大阪方面からの玄  
関口にある、村で最も集客の  
できる場所から如何にして村  
の中心部に呼び込むか。

魅力ある  
中心部づくり

県道  
大台河合線

西大台利用調整地区

環境省が日本で初めて導入した  
立ち入り人数などを調整する区域  
で、立ち入りには事前の手続きが  
必要。

国道169号

# 上北山村河合周辺地区まちづくり基本構想

「奈良県と上北山村との郷(まち)づくりに関する包括協定」(平成29年9月28日)に基づき、「河合周辺地区」を対象として地域の活性化に関するまちづくりの方向性をとりまとめている。今後、構想を策定し、奈良県・上北山村・地域住民等が連携・協働し、まちづくりに取り組んでいく。

まちづくりの方向性	基本目標	具体的な取組み
<p>1. 「ふれあいの郷 かみきた」・「上北山温泉薬師湯」のリニューアルを契機に河合周辺地区を「通過地点・休憩地点」から「滞在して楽しめる拠点」に</p>	<p>来訪者が立ち寄りたくなる空間整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふれあいの郷 かみきた」・「上北山温泉薬師湯」のリニューアル</li> <li>・まちの顔となる修景整備(道の駅周辺の案内サイン、橋梁等の修景、イルミネーションなど)</li> <li>・「ふれあいの郷 かみきた」周辺の水辺空間の整備(バーベキュー禁止区域指定の検討やバーベキューサイト整備など)</li> <li>・旧かもしか園・森林ファミリーパークの活用(植栽、散策路の維持管理、看板の整備など)</li> <li>・道の駅周辺</li> </ul>
<p>2. 地域の新たな産業を育成する</p>	<p>河合地区を拠点とした周遊性の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河合地区</li> <li>・大台ヶ原へ</li> <li>・河合周辺地区</li> </ul>
<p>3. 住民の暮らしを支える機能を強化する</p>	<p>地域住民が来訪者に関わる仕組みづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の資源</li> <li>・空き家を活用した交流の場の整備(ゲストハウス、コミュニティカフェ等)</li> <li>・森の案内人(インタープリター)や歴史等の案内人の育成</li> </ul>
<p>2. 地域の新たな産業を育成する</p>	<p>地域産業の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな特産品の開発(林業資源の活用、柑橘類の栽培、先端技術導入による養殖など)</li> <li>・ローカルベンチャーの創出(地域のなりわいづくりの勉強会、起業支援プログラムの導入など)</li> <li>・「ふれあいの郷 かみきた」の営業再開に合わせた地元商店・飲食店等の連携強化</li> </ul>
<p>2. 地域の新たな産業を育成する</p>	<p>村外へのPRの強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の新たな魅力の掘り起こし(冬の大台ヶ原ツアーの開発、マウンテンバイクコースの開発など)</li> <li>・地域の魅力の発信(合宿の誘致、ファミリー層など、ターゲットを絞った村外へのPRなど)</li> </ul>
<p>3. 住民の暮らしを支える機能を強化する</p>	<p>安心して暮らせる環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな移動交通手段の検討(乗り合い自動車、自動運転バスの運行など)</li> <li>・児童の放課後支援、学童保育(とちの木センターなど)</li> <li>・災害時・緊急時のヘリポートの確保</li> </ul>

基本構想案の大部分が、「むらの内外から人が集まる」魅力づくり(ハード・ソフト両面)となっている

の整備など)  
本験など)



## 上北山村拠点施設リニューアル事業

平成23年よりほぼ休眠状態であった宿泊施設を再開し、大台ヶ原や大峯エリアから観光客、登山者を、そして、サイクリストや川遊び客を呼び込み、再生を図る。



## 「一般社団法人 ツーリズムかみきた」 設立

運営母体として今年3月末に村と区長会で設立。現在、道の駅のコンビニを運営。今後、宿泊施設の他、各種村営施設を経営統合していく予定。



- ・上北山村の中心地である河合地区に元気を取り戻す。その核になるのが、上北山温泉を内包する宿泊施設。
- ・自然豊かな象徴であるユネスコエコパークを活用した「スポーツツーリズム」、「エコツーリズム」により、外部から村の中心部へ誘客し、また、村民も温泉入浴や食事で利用する。
- ・安定した雇用場所とするためにも、冬期における「スポーツツーリズム」、「エコツーリズム」を進め、安心して働ける場所として、移住、定住者を増やし、人口減に歯止めをかける。



ご清聴ありがとうございました。

ナメゴ谷の山桜

上北山村